

私がラグビーを始めたのは、高校2年生のときでした。その年すぐ花園の全国高校ラグビー大会に出場し、翌年優勝を勝ち取りました。その間、日本選手権史上初の7連覇という金字塔を打ち立てた新日鉄釜石ラグビー部の松尾雄治さんから「東北の上海に來ないか。一緒にラグビーをやろう」と声をかけていただき、感激しました。

秋田から釜石にやってきて驚いたのは、夜中でも製鉄所の明かりがキラキラ輝き、電灯がなくてもまちを歩けると言われるほど明るかったことです。港に外国船が停泊し、さまざまな人々が行き交う開放的なまちで、まさに不夜城でした。

社会人での練習は集中力が格段に違っていました。ついていくのに必死でしたが、技術だけでなくラグビーに取り組む姿勢や価値観を、素晴らしい先輩たちから目の前で教わるのができ、幸せでした。

恵まれた環境のなか、私は20歳のとき、第1回のラグビーワールドカップ1987日本代表に選ばれました。その後、95・99年にも出場し、かけがえのない経験をさせていただきました。最も印象に残っているのは、95年南アフリカ大会でのオールブラックス戦です。145失点で大敗を喫した苦しい思い出ですが、あの試合で多くのことを学びました。

一方、会社のラグビー部ではさまざまな条件が重なり、再びの日本一は果たせませんでした。2001年には単独社会人チームから誰もが参加できるクラブチーム・釜石シーウェイブスRFCに生まれ変わりました。



KAMAISHI UNOSUMAI
MEMORIAL STADIUM



の希望につなげたい

ラグビーワールドカップ2019アンバサダー

釜石シーウェイブスRFCゼネラルマネジャー 兼 監督 桜庭 吉彦氏

以前から他の企業チームよりも地域とのつながりが強かったとは思いますが、クラブ化によって距離がさらに近くなりました。良いときも悪いときも地域の皆さんと共に歩んできました。

東日本大震災では家族や知り合いを亡くした選手やスタッフもいました。そのなかでも、選手たちは各地から届けられた支援物資を避難所へ運ぶなど、いち早くボランティア活動に奮闘してくれました。特に外国人選手たちが帰国せずに行動を共にしてくれたことは、大きな励ましとなりました。自分たちでできることをしよう、まずはそこから始めようとチームが一つになりました。本当に国内外の大勢の皆さんが釜石を、そしてチームを心配し、支援してくださいました。大変ありがたかったです。

ラグビーワールドカップ2019日本大会がいよいよ釜石で開催されます。この大会を通して私たちは復興の姿を世界中に発信し、支援への感謝の気持ちを伝えていきます。倒されてもすぐに立ち上がり、ボールを次の人につなぐ。チームプレーに徹し、ゴールに向かって一人ひとりが役割を果たしていく。Go Forward(前に進んでいく)というラグビーの精神は、まさに釜石が震災から立ち上がるうとする姿と重なります。ぜひ多くの皆さんにスタジアムで国を背負って戦う選手たちの気迫、戦ったあとのすがすがしい表情を見ていただきたいですね。そのとき何かを感じてもらうことが、きっと釜石、そして日本の未来への希望につながると思っています。(談)



未来へ